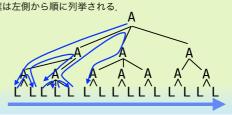


2分法について ・以下のような木構造(これを2分木という)があるとする。この木構造において、それぞれのレベルで2つうちのどちらかを選択すると、最終的に欲しい解に辿り着くことができる場合、この探索方法を2分探索法(バイナリーサーチ: binary search)と呼ぶ。 2分法はソートされているデータから効率的に目的のデータを見つけ出す方法である。

深さ優先探索は葉に出会うまで、深く進み、深く進めなくなったら、一段階もどって、別の方向に深く進む、深く進むことを優先する探索法である。 もし、木が無限に深い場合には止まらなくなる。したがって、この方法は使えない。 葉は左側から順に列挙される。



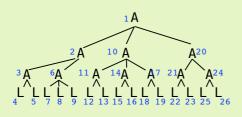
与えられた木のノードを 順に走査する方法:深さ優先探索 (4) ・深さ優先探索を行うためのプログラム function DFS(node) { nodeについての処理; for (nodeのすべての子供childについて) { DFS(child) } }

child

function kadai(n){ function check(pat, i, j, k, l){ var sum = pat[i] + pat[i] + pat[k] + pat[l] if (sum! = 30) return true else return false } function magic(pat, rest){ var llen = pat.length if (llen => 16) return 1 if (llen => 16 beck(pat, 0, 1, 2, 3)) return 0 if (llen == 12 && check(pat, 4, 5, 6, 7)) return 0 if (llen == 12 && check(pat, 4, 5, 6, 7)) return 0 if (llen == 12 && check(pat, 0, 1, 2, 3)) return 0 if (llen == 13 && check(pat, 4, 5, 6, 7)) return 0 if (llen == 15 && check(pat, 0, 1, 5, 9, 13)) return 0 if (llen == 15 && check(pat, 2, 6, 4, 8, 12)) return 0 if (llen == 15 && check(pat, 2, 6, 10, 14)) return 0 var sum = 0 for (var i = 0; i < rest.length; i++){ var pat = pat.slice(0) var restx = rest.slice(0) pat.push(rest[i]) return sum } return sum } return sum | Sum += magic(pat, restx) | Sum += magic(pat, restx) | Ferturn sum } var rest = [] for (var i = 0; i < 16; i++) if (i != n) rest.push(i) return magic([n], rest) **Jayada** Jayada** Jayada**

与えられた木のノードを 。 順に走査する方法:深さ優先探索 (3)

• 葉ではないノードの順位も含めて以下のような順番で探索が行われる。



11

12

$\langle \rangle \langle \rangle$

第8回課題1

一般の魔方陣 (magic square) は右図のように 縦、横、斜めの和がすべて等しいという条件の成 り立つ0から8までの数の並びである。このパズル を変形して、右図の斜めの条件を除外して、縦お よび横の条件が成り立っている並びのことを**準魔** 方陣 (semi-magic square)と呼ぶ、4x4の準魔 方陣 (すなわち、0から15までの数のならび)の うち、左上の数がnであるものの総数を返す関数 kadail (n) を作れ、

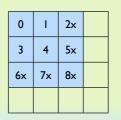


ヒント: なるべく早い段階で枝刈りをするような プログラムにすると、少ない計算量で数えること ができる。



課題1解答例 (3)

そもそも束縛が存在することから決めるべき数値は左上の3x3の領域 (青い部分)の値である。その部分の値が決まれば、それ以外の場所 は自動的にあたいが決まる。xの場所の値が決まると青以外の場所も 一部決定される。



0の位置は外部から指定されるので、他の8箇所の値を決めればすべて決まることになる。これによって木構造がかなり単純化される。ただし、用いる値は0~15であり、"x"のついている場所については、2つ以上の数が使用済になる。

```
function add_to_tabulist(state){
    for (var i = 0; i < tabulist.length; i++){
        if (eq_state(state, tabulist[i])) return false
    }
    tabulist.push(state)
    return true
}

function check_state(state){
    if (state[1] != state[2]){
        if (state[2] == state[3] || state[2] == state[5]) return false
    }
    if (state[3] != state[4]){
        if (state[4] == state[1] || state[4] == state[5]) return false
    }
    if (state[5] != state[6]){
        if (state[6] == state[1] || state[6] == state[3]) return false
    }
    return true
}
```

$\Diamond \Diamond$

第8回課題2

15

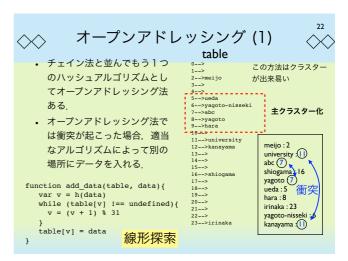
3組の夫婦がいる。この3組の夫婦は今ボートを使って川の左岸から右岸へ渡りたい。このボートは二人乗りで3人以上は乗れない。さらに複雑な事情として、3組の夫婦のそれぞれの夫は非常に嫉妬深く、自分がいないときに他の夫と自分の妻が一緒に居ることを許さない。このような状況で全員が左岸から右岸に渡るにはどうしたら良いか。ただし、ボートは無人で移動できないとする。幅優先探索を用いて最も回数の少ない渡り方を返す関数 kadai2()を作れ。ただし、返す値は、夫1、妻1、夫2、妻2、夫3、妻3をそれぞれ0、1、2、3、4、5として、それぞれの時点でボートに乗るメンバーのリストとして、

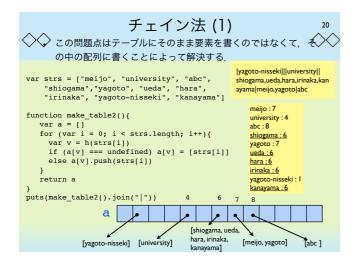
kadai2() = [[1, 3], [1], [0, 2], ...]

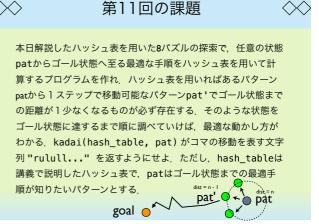
のように返せ、答は複数存在する可能性があるが、そのうちの一つを返せば良い、もちろんポートが無人で移動することはない、

課題2解答例(3) 最後に幅優先探索で問題を解く. 11ステップで解くことができる. res = kadai2() for (var i = 0; i < res.length; i++) puts(res[i])</pre> 0,1 夫妻 1 で右岸へ 0 夫1が左岸へ戻る 3,5 妻1と妻3が右岸へ 1 妻lが左岸へ戻る 2,4 夫2と夫4が右岸へ 2,3 夫婦2が左岸へ戻る } var res = [] while (node != null){ var [state, parent, mv] = node res.unshift(mv) node = parent } 0,2 夫1と夫2が右岸へ 5 妻3が左岸へ戻る 夫婦1:夫(0),妻(1) 1,3 妻1と妻2が右岸へ res.shift() 夫婦2:夫(2),妻(3) 1 妻1が左岸へ戻る 夫婦3:夫(4),妻(5) 1,5 妻1と妻3が右岸へ



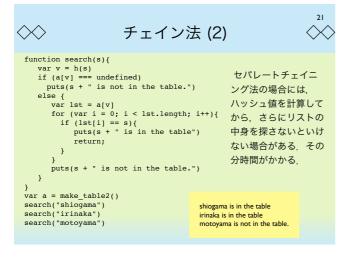






解答例 (1)

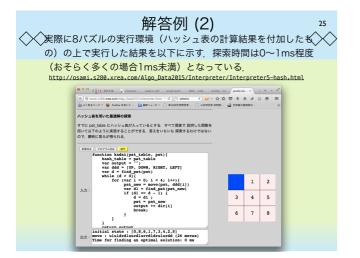
23

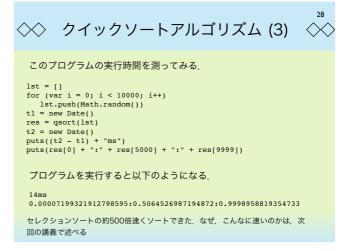


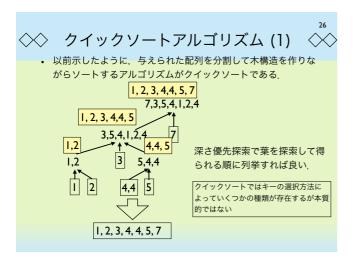
これまで説明した関数を組み合わせて用いれば作ることができる。手順は問題で示した通りである。
1.与えられた状態sから最終状態Fまでの最適ステップ数dを調べる。
2.一つ動かしてみてステップ d ー 1になる方向を探す(これは必ずあるはず)。

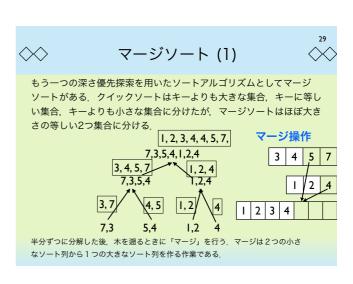
3.そちらの方向にsを移動させ、そ

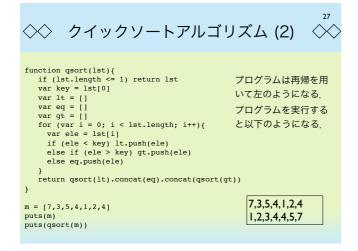
れを記録する.











```
function merge(lst1, lst2){
    var lst = []
    while (true){
        if (lst1.length == 0) return lst.concat(lst2)
        else if (lst2.length == 0) return lst.concat(lst1)
        if (lst1[0] (stz[0]) lst.push(lst1.shift())
        else lst.push(lst2.shift())
    }
}

function msort(lst){
    var n = lst.length
    if (n < 2) return lst
    else {
        var n2 = Math.floor(n / 2)
        return merge(
            msort(lst.slice(0, n2)), msort(lst.slice(n2, n)))
    }
}

m = [7,3,5,4,1,2,4]
    puts(m)
    puts(msort(m))
```

マージソート (3)

マージソートの実行時間を測ってみる。

lst = []
for (var i = 0; i < 10000; i++)
 lst.push(Math.random())
t1 = new Date()</pre> t1 = new Date()
res = msort(lst)
t2 = new Date()
puts((t2 - t1) + "ms")
puts(res[0] + ":" + res[5000] + ":" + res[9999])

上のプログラムを実行すると以下のようになる。

0.000001941695703333579:0.49702765282789085:0.9999521926597846

クイックソートに比べると遅いが、セレクションソートの約120倍速くソートできた。

プライオリティーキュー (3)

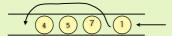
データの挿入:この性質を保ちつつデータを付加するには、一番した の枝に要素を入れてから入れ替えによって、この性質が成り立つよう 変形する.



プライオリティーキュー (1)



ここでソーティングから少々離れて、特殊なキューの構造について考 えてみる。プライオリティーキュー(優先順位付きキュー)はデータ を取り出すとき、最初に入れられたものではなく、一番小さな値を持 つものが常に取り出される。

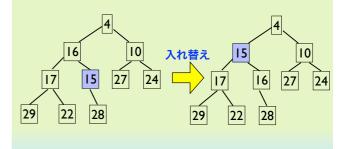


このようなキューを実現するデータ構造はフィボナッチヒープなどい くつか知られている。ここでは、2分ヒープによる実現を示す。

プライオリティーキュー (4)



データの挿入: 16と15の大小関係に問題があるので、さらに入れ替 える. 最大で根 (root) まで入れ替え作業を行えば、矛盾は解消する



プライオリティーキュー (2)



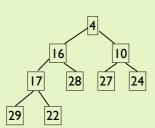
С

 $A \leq B$

かつ

 $A \leq C$

• 2分ヒープは、2分木構造をしている。この2分木では、親ノー ドの値が必ず子供のノードよりも小さい.



木のノードはいつも上から詰まって、一番末端は左から詰 まっていくとする.

プライオリティーキュー (5)

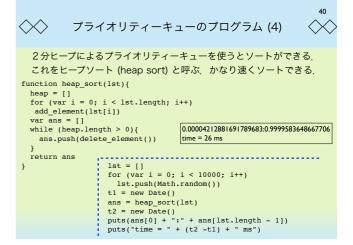


最小データの削除:一番値の小さなデータを削除するには、根の要素 を削除すればよい(それが最小であることは明らか).



削除しただけでは穴があいてしまうので最後の要素を根に持って行く

プライオリティーキュー (6) $\langle \rangle \langle \rangle$ • キューの条件を満たすために入れ替えを行う 入れ替え |17|



プライオリティーキュー (7) さらに入れ替えを行って、全体的に条件が満たされるようにする. 入れ替え

くこと.

アルゴリズムやデータ構造と実際のプログラムとの対応がわかるようにしておくこと。 オーダの記法の意味を理解しておくこと。 木探索の方法について理解しておくこと。 2分ヒープ(プライオリティキュー)の管理方法と表現方法について理解しておくこと。 ハッシュテーブルの管理方法について理解しておくこと。 いくつかのソートアルゴリズムについて理解しておくこと。

期末試験に向けての注意

• ここで採り上げたデータ構造やアルゴリズムを良く理解してお

